

※ 令和6年度 自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による

大項目	点検・評価項目	実施・検討事項	学校評価	コメント・課題と方向性
			優れている…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 改善が必要…1	
1 教育 理念・ 目的・ 人材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	教育理念・目標・育成人材像は、学則、本学ホームページ及び学校案内パンフレット等に明確に公表している。開校以来、ヒューマンズを核として専門分野における社会貢献、実践力を身につけた人材の育成を目的に掲げて学校運営を行っており、この理念に沿って教職員一丸となりその育成に取り組んでいる。	3.9	理念、校是である「正義」「友愛」「奉仕」は、学生・教職員等に浸透している。5つの学科が専門職連携教育の一貫で「多職種グループワーク」を行ったことが学生の成長につながった。今後も一層活性化するためチーム医療・チームケアを絶えず念頭におき、人間力を高め、社会に貢献、還元することを忘れてはならないと考える。教職員の更なるスキルアップが求められる時代であり、教育に関する研修への参加を推奨していく。
	1-2 学校の特色は何か	福祉・リハビリテーション・看護分野の5学科による相互理解を促進する講義を行い、現場で重要となるコミュニケーションについても学び、現場に強い医療・福祉人を育てている。また医療福祉人材の育成に加え、「小児分野」に注力している。	4.0	
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	青丹学園が目指す場所は、医療福祉人材に加え、未来を担う「子ども」を育てることである。将来構想を実現する人材を養成するため、学内外での教職員研修をおこない、多様な場面における教職員の対応力および資質向上に努めている。	3.4	
2 学校 運営	2-1 運営方針は定められているか	運営方針は評議委員会の意見を踏まえて理事会で決定する。月一回の運営会議および教職員会議等を通じて教職員に周知徹底している。	3.9	少子高齢化を背景とした社会環境において、学生募集活動の取組強化が必須の課題である。広報活動におけるスキルが必要と考える。附属施設の拡大により一層、組織的な学校運営の協働体制を構築できるようにする。人事考課を刷新しうまく運営できる仕組みをつくる。また近年、サポートの必要な学生がいるため教職員をフォローアップできる体制の確立が課題であると考え。ICTを活用した授業が増えていくため無線通信の通信環境を更に安定させる。
	2-2 事業計画は定められているか	毎年度、校務分掌ごとに事業計画を定め、理事会において承認を受けている。この計画をもとに学校運営を行っている。	3.9	
	2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	組織図に基づき、学校全体・学科毎の体制が明確にされており、運営会議等にて重要事項に関しての意思決定は速やかに行われている。	3.9	
	2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	就業規則や目標達成度へのつり公正な人事考課を行っている。その中で、業務実績や勤務態度に関しては評価できるもののスキルに関する能力評価がやや不足していた。有給の消化率が上がり効率よく運営ができていられる。	2.9	
	2-5 意思決定システムは確立されているか	各会議が開催される。決定した内容を議事録にまとめ、教職員会議等で教職員に伝達している。場合によっては、Googleスペースで必要な情報を迅速に共有できるようにしている。	3.3	
	2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生・教職員のIDを作成し、提出物や個々への対応がスムーズになり効率よく行えた。また情報システムの運用について情報資産に対するアクセス権限を明確に設定しセキュリティ対策を行っている。	3.0	
3 教育 活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか	医療・福祉の業界ニーズを常に把握し、要望に合った人材の育成を目指しており、実習先の意見・教員の情報等に基づき学生の指導にあっている。	3.7	一年次より体系性を意識しながら時代に対応すべく、カリキュラムについて不断の見直しを行っている。これまでも少人数教育や問題解決能力を高める教育を推進しているが、今後も内容を充実させたい。国家試験対策委員会が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。引き続き充実させていく。より質の向上をめざし ①早期臨床体験実習ができるよう附属施設や母体病院との連携を密にし横断的な学習機会を得らえるようにする ②医学基礎教育が徹底できるよう専任スタッフを充実させ、教育を主たる業務として担当する人員を増やすことも必要である ③組織的な教育能力形成（Faculty Development）を一層活性化し教育活動の質の向上を目指す（公表も行う）等が考えられる。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	学科ごと、学年ごとに教育到達レベルを示し、単位認定、進級・卒業要件を定めている。	3.6	
	3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか	指定規則、ガイドラインに定められているカリキュラムを整備している。またカリキュラムマップを作成し教育課程を可視化している。さらに各学科特色あるプログラムの実現に向け遂行している。	3.9	
	3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	専門知識の取得を図るとともに国家試験合格に向けた内容になっており、各学科教員は高い意識のもと学生の指導にあっている。	4.0	
	3-5 キャリア教育の視点に立つたカリキュラムや教育方法などが実施されているか	学外と連携した臨床実習等で職業観の基盤となる知識・技術・人間性を育成している。感染症に細心の注意を払い、現場での実習を実施した。	3.9	
	3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	毎授業毎に理解度チェックを行い、授業の到達レベルを把握している。	3.6	
	3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	専任教員は、以下のいずれかには該当しており、教員の質を担保している。 ①現場経験が5年以上の者 ②学士の学位を有する者、またはそれに準ずる学識、教育、研修修了者である ③研究業績のある者 ④各協会の会員。 非常勤講師は、現場でご活躍の先生方が多く専門性の鮮度も高い。しかし医師の派遣が厳しく、講師確保が難しくなっている。	3.0	
	3-8 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価は学則に明記をしており、授業科目内容に合致した客観的評価を実施している。単位認定、進級・卒業認定会議を設け、厳正な判定を実施している。	3.7	
	3-9 資格取得の指導体制はあるか	国家試験対策委員会を設置し、指導体制を構築している。各学科毎に、グループワークや個別指導を行い学生の知識量に応じた体制で指導にあたった。継続して国家試験100%合格を目指している。	3.7	
4 教育 成果	4-1 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	高卒課程の学科では、社会人になるためのマナー講座を開催し、就職活動に取り組みしている。5年度も全学科、就職希望者は希望の分野に全員就職でき、就職率100%を達成できた。今後も100%を目指す。	4.0	資格取得は本学の最もコアな部分であり、100%は常に意識している。退学は低減しているが、退学事由に学力不振が多い。学力不振者等に対し、学年担任や所属長が面談・補講等でケアを行っているが、ストレスが高くなる学生が多い。これは本人の人生に関わる大きな問題である。中でも学生生活不適応、心身耗弱の理由が増加しており、メンタルサポートのシステムを設けていくことが望ましいと考える。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	入学年次から国家資格取得に向けた取り組みをしている。定期的に国家試験に準じた形式の試験を行い、国家試験の形式や出題範囲、傾向等を把握させ必要な学習内容を意識付けするとともに学習意欲の向上を図っている。	3.7	
	4-3 退学率の低減が図られているか	開校以来、中退者ゼロを目指している。学生の抱える様々な問題に対し、早期発見、早期解決ができるようクラス単位複数担任制、学科全体、学校全体で取り組み、学生が安心して学生生活を送れるよう努めている。年々、退学率は低減している。	3.0	
	4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	実習先へ教員が訪問、各種研修会への参加、同窓会開催、卒業後の勉強会等を通して、卒業生等の活躍の把握はしている。また卒業生が講義（講師）を担当し、母校をバックアップしてくれている。	3.1	
5 学生 支援	5-1 就職に関する体制は整備されているか	求人票はいつでも閲覧できるように整備されている。就職面接でのマナー（接遇）や履歴書指導など担任を中心に実施している。	3.4	就職サポート、学生の個別面談、問題が起きた際の保護者への連絡等、迅速に対応している。しかし実際にうまく行かないケースもあり、教員自身が思い悩むことも多い。障がいのある学生への支援体制が内部教員にとどまらず専門家にアドバイスを頂くなど整備している。
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	定期的に個人面談を実施し教員間で学生の状況を共有し対応している。	3.6	
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	経済的支援として日本学生支援機構の奨学金及び高等教育の修学支援新制度を整備している。専任の学費アドバイザーが常駐し個別のケースに応じた対策を学生に提供しており、独自の奨学金制度もある。	3.6	

5 学 生 支 援	5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	毎年4月に健康診断を実施しており、提携病院等の協力もあり学生の健康管理には万全を期している。	3.4	学生、教職員の安全確保ならびに健康を確保するため衛生管理の向上をはかる衛生委員会を設置している。 ・産業医、衛生管理委員メンバーによる職場巡視 ・法定健康診断等ある。
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域・施設からの支援要望のポスター等を掲示、地域のまちびらきイベントに参加、企業訪問等参加している。	3.3	
	5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮は所有していないが、一人暮らしをする学生のための提携寮はあり、また近隣の不動産業者とも提携し学生の要望に応じている。学生寮の所有計画は現時点ではない。また、遠方入学者に対し経済的支援を行っている（遠方入学者支援制度）。	2.9	
	5-7 保護者と適切に連携しているか	学科毎に、学生の学習面や出欠状況（具体的には、欠席が3～4日続く）に変化や問題があれば、学生本人だけでなく保護者とも状況を共有している。できるだけ対面で状況報告を試みるが、保護者の仕事や家庭の状況によりオンラインでの面談も実施	3.4	
	5-8 卒業生への支援体制はあるか	再就職支援、勉強会、研究発表会の論文指導等を行っている。とりわけ再就職支援については、求人情報の交換や面談をしながら就職につなげている。	2.7	
6 教 育 環 境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	厚生労働省養成基準に則り医療・福祉機器を設備し、教材等も装備している。経年劣化は否めないが、整理整頓を心掛け、使用には問題の無いようメンテナンスも行う。	2.9	・経年劣化している設備を順次、改善・改修を行う予定である。 ・オンライン蔵書検索ができるよう整備をしていきたい。 ・パソコンを最新の状態に保つよう入れ替えを行う。
	6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	教育課程に沿って、学外の実施と連携した実習により体系的に実習を実施している。コロナ禍の影響、物価高による金銭的な面で海外研修は見送った。	2.6	
	6-3 防災に対する体制は整備されているか	緊急時の連絡表を作成して備えており、防災訓練も定期的に行っている。	2.4	
7 受 け 入 れ 募 集 と	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	募集要項に記載した試験日、出願日を遵守しており、オープンキャンパス及び保護者説明会の参加者へは本学院の実態を正確に伝えている。Web出願手続きの利便性が浸透し遠隔地居住者に対する負担軽減につながっている。	3.0	高校生の動きは戻りつつあるが、社会人の動きが鈍く、オープンキャンパスの動員に影響し、募集に苦労した年度であった。 オープンキャンパスでは正確な情報を伝えることを心がけており、入学後の学生生活を正しくイメージできるような告知をしている。 次年度定員達成を目指すのは当然であるが、予期せぬ出来事にも対応できる、足腰の強さを持たないといけない。
	7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	国家試験合格率・就職率等については正確な数字を伝えている。	3.6	
	7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学生募集要項に各学科が掲げるアドミッション・ポリシーを明記している。選考においても本校が求める選考内容となっている。入学試験委員により合否判定会議で公正に判断している。	3.4	
	7-4 学納金は妥当なものとなっているか	妥当なもの判断している。	3.3	
8 財 務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	看護学科以外は、定員に満たない。財務基盤を安定させるため、入学者を安定して確保する努力を続けている。	2.6	全体的には、適正に行われていると理解している。 予算策定にあたり、収支の均衡と教育の充実を期するため重要視しているが、学生募集の低迷とともに限られた予算枠をより有効に活用するかは今後も課題を残されている。
	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎期、大きな狂いが生じておらず、妥当と判断する。	3.0	
	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	毎期、適正な会計監査を行っている。	3.1	
	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	公開資料は事務室に常備しており申請により閲覧に供している。	3.1	
9 法 令 等 の 遵 守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令順守の精神のもと適正に厳格に運営している。	3.7	個人情報保護に関しては、かなり浸透してきているのではないかと。常に緊張感を持って取り組んでいきたい。
	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護法のもと、在校生・説明会参加者等の情報が流出しないよう万全の注意をはらっている。	3.7	
	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	年度末に自己点検・自己評価を行い、常に改善点はないか注意している。	3.7	
	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	本校ホームページにて公表している。	3.7	
10 社 会 貢 献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	近隣住民に依頼を受け出前講義を実施している。また種々の分野の団体に施設・設備等を開放し、連携を深めている。	3.4	地域保健・医療の観点から地域との交流を実施し、一次予防の重要性や社会復帰された患者様の生活等を学ぶ重要性を感じている。カリキュラムに系統的に組み込む作業を行っていきたいと考える。
	10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	地域イベントやスポーツイベント（ならマラソン）等に参加し活動補助を行っている。また学科単位で地域清掃を行い、地域の美化に努めている。	3.4	
11 国 際 交 流	11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	海外研修は新型コロナ以降、金銭面的に折り合いつかず中止している。	2.0	オンラインで実施可能な取り組みも検討するが、国際交流手段の確保が課題である。